

「民信無くば立たず」

日本銀行松山支店長 佐々木 仁

二千年以上前の孔子による『論語』の一節。このひと言は、「信頼」こそが、国家や企業、そして家族といった集団生活の礎をなすという意味で、古今東西、揺るぎない真理を言い当てている。

私が所属する日本銀行は、わが国唯一の中央銀行であり、その使命は「物価」と「金融システム」の安定を達成することにある。そのために欠かせないのは、我々の政策や業務に対する国民からの「信頼」だ。

「信は一日にしてならず」というが、どのようにして国民の「信頼」を得ていくのか？私がキャリアを通じて常に意識してきたのは「インテグリティ」—高潔さ、真摯さ、誠実さ—の確保だ。日本銀行は、法律によって、金融政策の独立性や業務運営の自主性が定められている。だからといって、独りよがりの行動が許される筈がない。自らの政策・業務運営について丁寧に説明し、国民からの「信頼」を得てこそ、使命の達成が可能となる。客観的かつ政治から独立した政策立案が物価と金融システムの安定に資することを示すため、我々は、常に公平かつ中立な立場から、日々の業務を遂行することが求められる。決して「インテグリティ」に疑念が持たれることがあってはならない。

内外情勢を巡る不透明感が増す中、日本銀行による使命達成に向けた道のりは険しい。そうした中でも、「民信無くば立たず」を肝に銘じ、謙虚かつ真摯に職務に向き合うことで、国民から幅広い信頼を得られるよう微力を尽くして参りたい。